

「まっすぐな地平線」を読んで

4年 M・Sくん

「空気を読むってどういう意味ですか?」ミンミンさんが言った時、ぼくはハッとしました。よく考えてみればわかることなのですが、国がちがい、育ったかんきょうもちがい、周りにいる人もちがうなら、その国それぞれにある言葉がちがい、日本にいるぼくたちが当たり前のように使っている言葉が、中国などの他の国では当たり前ではない事もあるのだなと思いました。

ゆうすけがミンミンさんを成田空港へむかえに行った時、小麦粉やポプラの木や風や雨や土も、そして人も日本と中国ではちがうとミンミンさんは言っていました。とても当たり前のことだとぼくは思うのです。毎日使う言葉も、毎日食べている料理や材料も、毎日すごしている気候も、国それぞれでまったくちがうのだから、その場所その場所で考えることや行なうことはちがって当たり前のはずです。でも、ニュースで中国とかかん国の人たちからぼくたち日本人はきらわれていると聞いたことがあるし、日本人でも中国やかん国の人たちのことを悪く言っている人がいると聞きました。この本を読んで、そういう他の国の人のことを悪く言う人は、もしかしたら、当たり前であるはずの国それぞれの「ちがい」のことを考えていないのかもしれない。ちがうことを地球に住むたく山の人たちが「当たり前」と思うことが出来れば、悪く言い合うこともなくなり、戦争だっでなくなるかもしれないと思います。だからと言って急に「ちがうことが当たり前」になるわけではないとも思います。

この本は、ぼくが今から出来ることも教えてくれました。

「人と人がおたがい心を通わせることで理かいが生まれます。」

ミンミンさんが言った言葉です。これから先、ぼくは、高校や大学などで色々な国の人と会うことがあると思います。その時は、このミンミンさんの言葉を思い出して、色々な人にせっせといききたいと思います。